**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第４２回　（２０１８年　３月１３日）**

**・第４２回の勉強範囲：「第一章　師と弟子」１４，１５頁**

前回はシュリー・ラーマクリシュナの4つの助言のちの、「ときどき出家僧と暮らす」、

「ひと気のないところに行って、神を瞑想する」、「識別する」と、「祈る」の途中まで説明しました。今回は「祈る」の続きを説明します。

**（４）祈る**

**「神様、どうか、信仰とあなたへの愛を与えてください」**

**・神様に対する愛**

一番基礎は「神様に対する愛」です。「神様に対する愛」がないと、何もできません。もし、神様に対する愛がなければ、すべての霊的な修行には感情がこもらず、機械的になってしまいます。

本文の「私に信仰と帰依する心をお与えください」の「帰依」という言葉は「バクティ」がもともとの言葉ですので、「神様に対する愛」と訳したほうがいいです。

**・信仰　viśvāsa ヴィシュヴァサ**

**信仰とは何か**

シュリー・ラーマクリシュナは、「神様に対する愛」と「信仰」の両方が大事だと言っていますね。では、信仰とはなんでしょうか。

・神様はいます。

・神様に祈るとそれを神様は聞いています。

・神様は祈りに満足してかなえてくれます。

・神様は我々を守っています。

・「神様を見たい」と深く願うと、神様は現れます。

これらはみんな、神様への信仰ですね。信仰がないと、我々は祈りません。例えばふつうの石に我々は祈りませんが、石で作った神様の像に祈ります。なぜなら、我々は石像の中に神様がいると想像しているからです。お寺に行く理由も、お寺の祭壇に神様がいると信じていきますね。だから、**愛だけでなく、信仰も大事です。両方必要です。そうしないと霊的に進めません。もし、神様に対する深い信仰があると、愛が出ます。神様に対する愛があると、信仰が出ます。自然に出ます。愛と信仰はとても近い関係にあります**から。

ふつうの人でも信仰のある人はたくさんいますね。例えば、ふつうの人は正月に初詣に神社に行きます。なぜなら、神社には神様がいると信じているからです。しかし、もし神様を愛していたら、正月だけではなく、もっと何回も神社に行きませんか。お寺もそうです。お寺にお釈迦様がいると信じているので、お寺に行って拝みますが、何回も行くことはまれです。

ではなぜ、ふつうの信仰ある人々は、神社やお寺にたびたび行かないのでしょうか？

それは神様に対する愛がないからです。あってもそれほどではありません。

もし神様を愛しますと、もっともっと何回も行きますね。神様を信じることと愛することはそれくらい違います。そしてタクールは両方が必要だと言っているのです。

**最初は信仰だけでもいいですが、神様と深い関係を作ってください。そして、深い関係を作るには、愛が必要です。愛しますと、神様との深い関係が始まり、進みます**。ふつうの人と、信者とはそこが大きく違います。

**信者が、信仰と神様への愛を持っている印**

今、ふつうの信仰を持っている人と、信者の違いをもう少し詳しく説明します。

**・**信者は神様がいると信じているだけではなく、神様を愛しています。

・神様を愛しているので、神様のことが好きです。

・何度も神様のことを考えたいです。

・神様について話をしたいです。

・神様がいる場所に行きたいです。

これらは「神様に対する愛」の印ですね。信仰に愛が合わさると、どれくらい変わるかわかりましたね。

タクールは偉大な聖者です。たくさんの人が時々ドッキネッショルに来ました。タクールが病気の時も、時々来ました。タクールのことを本当に愛している人々は、いつもシュリー・ラーマクリシュナのところに行って、お世話をしていました。一緒に住んで、できるだけお世話をして、タクールの病気がとても悲しい、と思いました。それに比べて、ふつうの人は、神様よりも、親戚、お金、名声などを一番愛しています。それがふつうではないですか？

神様を信じていても、神様に対する愛がない、愛があってもそこまでは愛していない。

しかし、**霊的に進むためには、「一番愛する相手は神様」である**ことが大事です。

しかし**ふつうそこまでの愛は出ていないので神様に「信仰と神様に対する愛を与えてください」と祈ってください**。　**その祈りは、人生の目的である「悟り」のために大事です**。

それではさまざまな深い信仰を持つ信者の祈りを見ていきましょう。

1. **ナーラダの祈り**

ナーラダはラーマ神を喜ばせたので、ラーマ神が「私に何か恩恵を願い出よ」と言いました。

ナーラダは二つの願いをしました。

・**どうか私のあなたへの信仰、愛がとても深くなりますように**

・**あなたはすべてのこの宇宙をいつもマーヤーで幻惑しています。どうぞその力で私を幻惑しないでください。私を束縛しないでください。**　　☞（『福音』p634上段L14~23参照）

「マーヤーで幻惑しないでください」という祈りは、ナーラダだけではなく、『福音』の中に何回もあります。なぜなら、**それほど神様のマーヤーは、すごい**こということだからです。我々はどのように束縛されているか、わからない。どれだけ気をつけてもわからないです。

例えば、年を取ったから誘惑されない、ということはありません。　死ぬまでいろいろな形で、束縛される可能性があります。　バーラタ聖者は、すべてを放棄して森に入りましたが、森で鹿に執着をして、来世に鹿として生まれましたね。そのことを考えてください。だから、いつも、いつも、「神様、私を守ってください」と祈ってください。祈りが大事です。

**b：アハリヤーの祈り**

**・おおラーマ、私はブタに生まれてもかまいません。ただ、一秒もあなたのことを忘れるこ　とのないようにしてください。**☞（『福音』p885下段L17~20参照）

人間の形で生まれても、**もし神様を忘れてしまうのなら、人間でいることさえ意味のないことです**。どんな形で生まれるかが大事なのではない。**神様をほんの一瞬も忘れたくありません**。これはすごい祈りですね。たくさんの人が人間の形で生まれても、神様のことを思い出すことはあまりありませから。

**c：クンティー妃の祈り**

**神様、私は楽しい状態が好きではありません。苦しみ、悲しみを与えてください。**

楽しいとき、神様のことを忘れてしまいますね。悲しいときは神様のことを思い出します。そして苦しいときは神頼みをしますね。悲しみ、苦しみ、楽しみが大事なのではありません。**クンティー妃にとって、一番大事なことは、神様のことをいつも思い出したい**、ということです。アハリヤーと同じです。神様に対する愛です。

**ｄ：タクールの祈り**

**私は、楽しいこともお金も名声も親戚もいりません。私は神様、あなただけが欲しいです。ほかのものは何もいりません。**☞（『福音』p634　下段L1~5参照）

さまざまな祈りを見てきましたが、その中で一番高い祈りは「神様のことをいつも思い出していたい」という祈りです。

しかし、我々は神様に「あなたのことを一秒も忘れたくありません」と祈りますが、すぐにそのことを忘れて、仕事、テレビ、携帯、インターネット、食事、レストラン、などのことで頭がいっぱいになっていませんか。まるでオウムのように口先だけで祈っていませんか。もし、**毎日の生活の仕方が、祈りと合っていなければ、矛盾になります**。

キリスト教の教えにとても有名な「主の祈り」というのがあります（マタイによる福音書6章9～13）。　しかしそれもただ毎日唱えるだけでは、フィーリングがなくなります。大事なのは感情を込めることです。

・📖 （読む）「師と弟子」１４頁下段Ｌ１５～1５頁上段Ｌ６

（*ケダールに）お前は信仰の巨大な力についてきいたに違いない。プラーナ\*に書いてあるのだが、神御自身―絶対なるブラフマン\*の権化―であられるラーマがセイロンに向かって海を渡るのに橋を作らなければならなかった。しかしハヌマーン\*は、ラーマのを信じてひと飛びに海を越え、向こう岸に着いた。彼は橋を必要としなかったのだ（みなが笑う）。*

*あるとき、ある男が海を渡ろうとしていた。ビビシャナ\*はラーマの御名を木の葉に書いてその男の服の端にくくりつけ、彼に言った、『恐れるな。信仰を持って水の上を歩け。しかしよくきけ。信仰を失ったらその瞬間にお前はおぼれるぞ』と。男はやすやすと水の上を歩いた。突然、彼は、自分の服の中に何が結びつけてあるのか見たい、という強い願望に駆られた。彼はそれを開いたが、ラーマの御名の書かれた一枚の木の葉を見ただけだった。『これはなんだ、ラーマの御名だけではないか！』と彼は思った。疑いが彼の心中に起こるやいなや、彼は水中に沈んでしまった。*

（解説）

何が信仰か、本当の信仰とはどれくらいすごい力があるか、そのことをシュリー・ラーマクリシュナは説明しています。浅い信仰と深い信仰があります。

例えば、インドではラーマの名前を唱えると、幽霊は傷つけに来ない、という信仰があります。幽霊が出ることで有名な場所を通っていかなくてはならないとき、そこを通りながらラーム、ラームと唱えていますが、心中ドキドキです。それは信仰が浅い証拠です。もし深く神様を信じていたら、幽霊は怖くないはずですから。

**信仰は特別なもの**

バイブルの中に「**からし種一粒の信仰があれば、山も動く**」（ルカの福音書17章5，6）、という言葉があります。

**それくらい、信仰とは特別なものです**。

海に沈んだ男の物語は、**もし信仰があると、いろいろなことができます。信仰がないとなにもできない**、ということを教えています

我々には信じる心があります。例えば、寝る前には「朝になると必ず目覚める」と信じて寝ます。食事には毒が入っていないと信じて食べます。飛行機は安全に目的地まで着くと信じて乗ります。

しかし我々には、神様を信じる心＝信仰、が浅いです。しかし**霊的に進みたいなら、信仰が深くなくてはいけません**。

**神様は絶対にいます、神様に私の声は届いています、神様は私を守ってくれますという信仰を持たなくてはなりません。**

しかし、我々から神様は見えないので、本当に神様がいるか、私の声は届いているか、という疑いをもってしまいます。

そのために、**「神様、信仰を与えてください」と祈ってください**。

そして、**深い信仰が出ますと、海の上を歩けるくらいすごい結果が出ます**。

・📖 （読む）「師と弟子」１５頁上段Ｌ７～1５頁上段Ｌ１１

*もし人が神への信仰を持っていれば、たとえ彼がもっと邪悪な罪―雌牛かブラーミン\*か女を殺すというような―を犯したとしても、その信仰によって間違いなく救われるであろう。神に向かって『おおよ、このようなことを二度といたしません』と言いさえすれば、何も恐れることはないのである」*

(解説)

**本当に深い信仰があると、罪も許される**

インド大使館のギーター勉強会で、罪のことをいっぱい話していますね。

☞（インド大使館ギーター2018年1月～3月）

「罪」と「罪を許すこと」について、例えば、キリスト教の教会では懺悔がありますね。ある人が教会で懺悔した後に、「『罪を犯しましたから、どうぞ許してください』と神様に祈った。おお、私はこれでたぶん、罪を許してもらえるだろう」とふつうの人は考えます。これは浅い信仰の人です。なぜなら潜在意識の中に神様に対する疑いがあるので、たぶんという言葉を使っています。

**深い信仰の印**

では深い信仰とは、どのようなものでしょうか。深い信仰には、２つの印があります。

・**私が大変な罪を犯しても、神様は絶対に許します。潜在意識の中にも疑いは一ミリもありません。**

**・同じ悪いことを二度としないと誓いを立てると、絶対にしない。**

もし、深い信仰があったら、神様に対する疑いは絶対にありませんので、自分が罪を犯しても、神様が許してくれる、と信じられます。そして、神様に「もう二度としません」と誓いを立てると、絶対にそれに従います。

・📖 （読む）「師と弟子」１５頁上段Ｌ１２～1５頁下段Ｌ５

*こうおっしゃると、師はおうたいになった。*

*もし私がドゥルガー\*の御名をとなえつつ*

*死ぬことさえできるなら、*

*どうしてあなたが、おお、き御方よ、*

*私に救いを拒むことがおできになりましょう、*

*たとえ私がみじめな奴でありましょうとも。*

*私は一杯の酒を盗んだかも、またはまだ*

*生まれぬ赤子を殺したかもしれない。*

*あるいは女か、または雌牛を殺したかもしれない。*

*ブラーミンを死に至らしめたことさえあるかもしれない。*

*しかし、そのすべてが真実だったとしても*

*私は少しも不安は感じない。*

*あなたの甘美な御名の力により、*

*私のみじめな魂でも、*

*ブラフマンの悟りさえ、*

*望むことができるのだから。*

（解説）

これは信仰の歌です。**もし死ぬ前に「ドゥルガー、ドゥルガー」と神様の名前を唱えると、ドゥルガーのおかげ、ドゥルガーの恵み、ドゥルガーの恩寵で、犯したすべての罪が取り除かれます**。　それだけではなく、ドゥルガーの名前を唱えながら死ぬと、人生の目的が叶えられます。**モクシャ（悟り）もできるのです。それくらい深い信仰です。**

この歌を作った人は、いろいろ大変な罪を犯しました。しかし、とても深い信仰を持っていましたね。外から見たら罪びとですが、信仰がとても素晴らしい。ですから、全部神様のおかげで取り除きます。それだけでなく、悟りもできるのです。

**バガヴァッド・ギーターでは、すべての罪はギャーナ：知識の影響で取り除きます**、と言っています。罪の海は知識の船で渡ります、と言っています。

*たとえ君が極悪の罪人だとしても、この大智の舟に乗るならば、あらゆる苦痛と不幸の大海を、難なく渡りきって行けるであろう。//4-36*

**『福音』では、信仰、バクティ・ヨーガで罪を取り除く**と言っています。

**どちらも結果は同じです**。しかし、ふつうの知識、ふつうの信仰ではありません。**最高の知識、最高の信仰によってのみ、すべての罪は取り除かれます。それだけではなく、悟りもできます。**

みなさん、『福音』を読んだ後、心の中で内容を反芻してください。瞑想の時にも、今日、『福音』のどんな部分を読んだかを思い出してください。そうしますと、残ります。

（20180313『福音』勉強会）以上